

(19)日本国特許庁(JP)

(12)特許公報(B2)

(11)特許番号
特許第7353977号
(P7353977)

(45)発行日 令和5年10月2日(2023.10.2)

(24)登録日 令和5年9月22日(2023.9.22)

(51)国際特許分類

F I

B 6 5 F 1/00 (2006.01)

B 6 5 F 1/00 B

A 6 1 G 12/00 (2006.01)

A 6 1 G 12/00 W

請求項の数 14 (全19頁)

(21)出願番号	特願2019-542451(P2019-542451)	(73)特許権者	514325044
(86)(22)出願日	平成30年12月12日(2018.12.12)		マンチキン・インコーポレイテッド
(65)公表番号	特表2021-506347(P2021-506347 A)		アメリカ合衆国、カリフォルニア州 9
(43)公表日	令和3年2月22日(2021.2.22)		1 4 0 6、バン・ナイス、グロリア・ア
(86)国際出願番号	PCT/US2018/065249	(74)代理人	ベニュー 7 8 3 5
(87)国際公開番号	WO2019/118626		110003708
(87)国際公開日	令和1年6月20日(2019.6.20)	(72)発明者	弁理士法人鈴榮特許総合事務所
審査請求日	令和3年10月15日(2021.10.15)		リー、アグネス・イエナ
(31)優先権主張番号	62/597,782	(72)発明者	アメリカ合衆国、カリフォルニア州 9
(32)優先日	平成29年12月12日(2017.12.12)		0 0 4 2、ロサンゼルス、ランタナ・ド
(33)優先権主張国・地域又は機関	米国(US)	(72)発明者	ライブ 1 1 2 3
(31)優先権主張番号	62/628,771		チャン、サン・ユン
(32)優先日	平成30年2月9日(2018.2.9)		アメリカ合衆国、カリフォルニア州 9
	最終頁に続く		1 1 0 4、バサデナ、ウェスリー・アベ
			ニュー 1 4 3 4
			最終頁に続く

(54)【発明の名称】 可撓性ペール

(57)【特許請求の範囲】

【請求項 1】

可撓性おむつペールであって、

コンテナを備え、

前記コンテナは、

第 1 の上端と第 2 の下端とを有し、直立ポジションに伸張し、保管のために平らに圧縮される可撓性シートと、

前記可撓性シートの前記第 1 の上端に取り付けられているカバーと、前記カバーは開口を有し、

前記可撓性シートの前記第 2 の下端に取り付けられているベースと、

前記カバーに枢動可能に取り付けられ、開ポジションに、および、閉ポジションに枢動するように適合されている可撓性フラップと、

前記開口に配置されている臭気防壁とを備え、

前記コンテナは、直立するように適合され、

前記可撓性フラップは、可撓性フラップが開いたままになるように、前記開ポジションで前記可撓性フラップを固定する、少なくとも 1 つの幾何学的突起または脚をさらに有する、可撓性おむつペール。

【請求項 2】

前記開ポジションは、排泄物を収容するように適合され、前記閉ポジションは、臭気を密封するように適合されている、請求項 1 に記載の可撓性おむつペール。

【請求項 3】

前記コンテナは、6 . 3 5 m m (1 / 4 インチ) の高さに圧縮するように適合されている、請求項 1 に記載の可撓性おむつペール。

【請求項 4】

前記コンテナは、4 5 7 . 2 m m (1 8 インチ) の高さに伸張するように適合されている、請求項 1 に記載の可撓性おむつペール。

【請求項 5】

前記コンテナは、6 . 3 5 m m (1 / 4 インチ) の高さで 4 5 7 . 2 m m (1 8 インチ) の高さとの間で圧縮および伸張するように適合されている、請求項 1 に記載の可撓性おむつペール。

10

【請求項 6】

前記カバーは、リップを有し、前記リップは、前記可撓性シートの前記第 1 の上端に結合される、請求項 1 に記載の可撓性おむつペール。

【請求項 7】

可撓性おむつペールであって、
コンテナを備え、
前記コンテナは、
第 1 の上端と第 2 の下端とを有し、直立ポジションに伸張し、保管のために平らに圧縮される可撓性シートと、

前記可撓性シートの前記第 1 の上端に取り付けられているカバーと、前記カバーは開口を有し、

20

前記可撓性シートの前記第 2 の下端に取り付けられているベースと、
前記カバーに枢動可能に取り付けられ、排泄物を収容するための開ポジション、および、臭気を密閉するための閉ポジションの間で枢動するように適合されている可撓性フラップと、

前記開口に配置されている臭気防壁とを備え、
前記コンテナは、直立するように適合され、
前記可撓性フラップは、前記可撓性フラップを前記開ポジションに固定するように、安定性を前記可撓性フラップに提供する、少なくとも 1 つの幾何学的突起または脚を有する、
可撓性おむつペール。

30

【請求項 8】

前記コンテナは、6 . 3 5 m m (1 / 4 インチ) の高さに圧縮するように適合されている、請求項 7 に記載の可撓性おむつペール。

【請求項 9】

前記コンテナは、4 5 7 . 2 m m (1 8 インチ) の高さに伸張するように適合されている、請求項 7 に記載の可撓性おむつペール。

【請求項 10】

前記コンテナは、6 . 3 5 m m (1 / 4 インチ) の高さで 4 5 7 . 2 m m (1 8 インチ) の高さとの間で圧縮および伸張するように適合されている、請求項 7 に記載の可撓性おむつペール。

40

【請求項 11】

前記カバーは、リップを有し、前記リップは、前記可撓性シートの前記第 1 の上端に結合される、請求項 7 に記載の可撓性おむつペール。

【請求項 12】

可撓性おむつペールであって、
コンテナを備え、
前記コンテナは、
第 1 の上端と第 2 の下端とを有し、直立ポジションに伸張し、保管のために平らに圧縮される可撓性シートと、
前記可撓性シートは、圧縮および伸張するように適合され、
開口とリップを有するカバーと、前記リップは、前記可撓性シートの前記第 1 の上端に

50

結合され、

前記可撓性シートの前記第 2 の下端に取り付けられているベースと、

前記カバーに枢動可能に取り付けられ、排泄物を収容するための開ポジション、および、臭気を密閉するための閉ポジションの間で枢動するように適合されている可撓性フラップと、

前記開口に配置されている臭気防壁とを備え、

前記コンテナは、直立するように適合され、

前記可撓性フラップは、前記可撓性フラップが開いたままになるように、前記開ポジションで前記可撓性フラップに安定性を提供する少なくとも 1 つの幾何学的突起または脚を有する、可撓性おむつペール。

10

【請求項 1 3】

前記コンテナは、6 . 3 5 m m (1 / 4 インチ) の高さで 4 5 7 . 2 m m (1 8 インチ) の高さとの間で圧縮および伸張するように適合されている、請求項 1 2 に記載の可撓性おむつペール。

【請求項 1 4】

前記コンテナは、6 . 3 5 m m (1 / 4 インチ) の高さに圧縮するように適合されている、請求項 1 2 に記載の可撓性おむつペール。

【発明の詳細な説明】

【関連出願への相互参照】

【0001】

20

[0001] 本願は、2018年6月22日に出願され、「可撓性ペール」と題された米国仮特許出願シリアル番号第62/688,795号、2018年2月9日に出願され、「可撓性ペール」と題された米国仮特許出願シリアル番号第662/628,771号、2017年12月12日に出願され、「可撓性ペール」と題された米国仮特許出願シリアル番号第62/597,782号、の出願日の利益を組み込み、主張し、その全体は、参照によってここに組み込まれている。

【技術分野】

【0002】

[0002] 主題の開示は、排泄物処理システムに関する。より具体的には、可撓性おむつペールが直立することを可能にするための頑丈な剛性を有する可撓性おむつペールに関する。

30

【背景】

【0003】

[0003] 従来のおむつペールは、一般的に非可撓性であり、かさばり、固く、厄介である。さらに、これらのおむつペールは、コンパクトではなく、容易に持ち運びもできない。したがって、出先で容易におむつペールを携えるための、および/または、家全体で複数のコンパクトおむつペールを有するための、代替的解決法がほしい親に対する必要性が生じる。

【概要】

【0004】

40

[0004] コンテナを有する可撓性おむつペールは、直立するように適合されている。コンテナは、可撓性シート、カバー、ベース、フラップ、および、臭気防壁を有していてもよい。カバーは、可撓性シートの第1の上端に取り付けられてもよい一方で、ベースは、可撓性シートの第2の下端に取り付けられてもよい。カバーは、カバーに枢動可能に取り付けられているフラップを有していてもよく、フラップは、開ポジションと閉ポジションとの間で枢動するように適合されている。カバーは、開口と開口中に配置されている臭気防壁とをさらに有していてもよい。可撓性おむつペールは、非常に小さな容積に圧縮し、大きなコンテナに伸長するように適合されている。

【図面の簡単な説明】

【0005】

50

【0005】 本開示のさまざまな例示的な実施形態が、以下の図面を参照して詳細に説明され、同じ参照番号は、同一もしくは同様の構成要素またはステップを指す。

【図 1】【0006】 図 1 は、主題の開示にしたがった、閉じた構成の可撓性ペールの上面斜視図を図示している。

【図 2】【0007】 図 2 は、開構成の可撓性ペールの上面斜視図である。

【図 3】【0008】 図 3 は、可撓性ペールの分解図である。

【図 4】【0009】 図 4 は、可撓性ペールの前面図である。

【図 5】【0010】 図 5 は、可撓性ペールの側面図である。

【図 6】【0011】 図 6 は、コンパクトな、圧縮構成の可撓性ペールの上面斜視図である。

【図 7】【0012】 図 7 は、可撓性ペールの上面図である。

10

【図 8】【0013】 図 8 は、可撓性ペールの底面図である。

【図 9】【0014】 図 9 は、閉構成の可撓性ペールの図 1 の A - A に沿った部分断面図である。

【図 9 A】【0015】 図 9 A は、カバーリップのない可撓性ペールの部分断面図である。

【図 9 B】【0016】 図 9 B は、カバーリップのない可撓性ペールの第 2 の構成の部分断面図である。

【図 10】【0017】 図 10 は、開構成の可撓性ペールの図 2 の B - B に沿った部分断面図である。

【図 11】【0018】 図 11 は、示したカバーフラップのない可撓性ペールの第 2 の実施形態の上面斜視図である。

20

【図 12】【0019】 図 12 は、図 11 の C - C に沿った部分断面図である。

【図 13】【0020】 図 13 は、可撓性ペールの第 3 の実施形態の上部斜視図である。

【図 14】【0021】 図 14 は、カバーフラップのない図 13 の D - D に沿った部分断面図である。

【図 15】【0022】 図 15 は、可撓性ペールの第 4 の実施形態の上部斜視図である。

【図 16】【0023】 図 16 は、図 15 の E - E に沿った部分断面図である。

【図 17】【0024】 図 17 は、可撓性ペールの第 4 の実施形態の分解図である。

【図 18】【0025】 図 18 は、可撓性ペールの第 5 の実施形態の上面図である。

【図 19】【0026】 図 19 は、開ポジションの可撓性ペールの第 6 の実施形態の上部斜視図である。

30

【図 20】【0027】 図 20 は、閉ポジションの図 19 の上部斜視図である。

【図 21】【0028】 図 21 は、閉ポジションの可撓性ペールの第 7 の実施形態の上部斜視図である。

【図 22】【0029】 図 22 は、開ポジションの図 21 の上部斜視図である。

【詳細な説明】

【0006】

【0030】 図面を参照して、本発明の特定の実施形態をより詳細に説明する。

【0007】

【0031】 図 1 は、直立するように適合されている、閉ポジションの可撓性ペール 10 を図示している。可撓性ペール 10 は、カバー 20、ふたまたは可撓性カバーフラップ 40、コンテナ本体 60、および、(図 3 中に示すような) ベース 80 を有していてもよい。

40

【0008】

【0032】 可撓性ペール 10 は、スマートで、コンパクトで、軽量であることができる。さらに、可撓性ペール 10 は、コストがより低く、使い捨てであることができる。したがって、可撓性ペール 10 は、多く異なる状況に対して理想的であるかもしれない。例えば、軽量で持ち運び可能な性質の可撓性ペール 10 は、ユーザが可撓性ペールを任意の所定の部屋に置くことを可能にし、同時に、出先でユーザとともに可撓性ペール 10 を持ってくる能力をユーザに提供する。他の状況では、親は、伝統的なペールを有していないかもしれない祖父母または世話人に彼らの子供を預けるかもしれない。その後、可撓性ペール 10 は、臭気に耐えるおむつペールがないことに世話人が苦しむ必要がないように、可撓

50

性ペールを世話人に持ってくる容易さと値ごろ感を親に提供する。さらに、世話人は、可撓性ペール 10 の値ごろ感と使い捨て可能なことにより、可撓性ペール 10 を戻す必要がない。

【0009】

[0033] 図 1 ~ 3 中にさらに示すように、カバー 20、ふた 40、コンテナ本体 60、および、ベース 80 は、排泄物が置かれるチャンバー 12 を形成するように、ともに作用する。カバー 20、ふた 40、コンテナ本体 60、および、ベース 80 はまた、チャンバーまたは区画 12 内からの排泄物の臭気が可撓性ペール 10 の外側に達するまたは発することを回避する。これを達成するために、カバー 20 は、コンテナ本体 60 の第 1 の上端 62 に真空成形または結合されてもよい。同様に、ベース 80 も、コンテナ本体 60 の第 2 の下端 64 に真空成形されてもよい。

10

【0010】

[0034] カバー 20 は、真空成形によって、または、半剛性カバー 20 の開発のための製造の他の何らかの適切な方法によって構築されるまたは結合されることができる。さらに、カバー 20 は、コンパクトな可撓性ペール 10 に圧縮できる、ポリエチレン、プラスチック、ゴム、金属、木材、厚い布、および、これらに類するものを含むがこれらに限定されない、可撓性ペール 10 の素材を通して不快な臭いの臭気ガスが漏れることを回避する任意の適切な素材で構築されることができる。

【0011】

[0035] 図 1 ~ 3、および、9 ~ 10 中に示すように、カバー 20 は、カバーリップ 22 を有していてもよい。カバーリップ 22 は、カバー 20 の末端に配置され、コンテナ本体 60 の第 1 の上端 62 にカバー 20 を取り付けのために使用できる。カバーリップ 22 は、上向きで、コンテナ本体 60 から離れて示されているが、一般的に下向きで、コンテナ本体 60 向きまたはコンテナ本体 60 中に取り付ける際にカバー 20 を支持する他の何らかの適切な向きであってもよいことが理解されるだろう。

20

【0012】

[0036] 上記で説明したように、半剛性カバー 20 は、コンテナ本体 60 の第 1 の上端 62 に取り付けられている。これは、カバーリップ 22 を使用することにより、および、カバーリップ 22 と第 2 の上端 62 との間に熱密封プロセスを適用することにより達成できる。しかしながら、接着剤、結合剤、素材溶剤、および / または、カバー 20 をコンテナ本体 60 の上端に取り付けるための他の何らかの適切な方法に限定されないが、これらのようなさまざまな多様な方法で、半剛性カバー 20 は、コンテナ本体 60 の上端 62 に締結されてもよいことが理解されるだろう。

30

【0013】

[0037] 図 9 A ~ 9 B は、カバー 20 がカバーリップ 22 をコンテナ本体 60 の第 1 の上端 62 に取り付けの必要がないことを企図している。示しているように、コンテナ本体 60 の第 1 の上端 62 は、カバー 20 の下 (図 9 A) またはその上 (図 9 B) に位置してもよく、カバー 20 の末端に結合されてもよい。図 9 B は、第 1 の上端 62 は、穴 16 を通してタブ 14 が位置できる、穴 16 を有していてもよいことさらに企図している。カバーリップ 22 の除去は、可撓性ペール 10 をより小さなユニットに圧縮することを可能にする。両方の事例では、コンテナ本体の第 1 の上端 62 は、複数の内側に面するタブに形成されてもよく、これらは、オーバーラップすることなく内側に折りたたまれてもよく、カバー 20 に直接結合されてもよい。

40

【0014】

[0038] 図 1 ~ 3 および 9 ~ 10 は、ユーザがより容易にふた 40 を移動することを可能にする指用凹部 24 をさらに有していてもよいカバー 20 を図示している。同様に、ユーザがカバー 20 からふた 40 を容易に移動することを可能にするように、複数の指用凹部 24 をカバー 20 上に設計できる。ユーザがカバー 20 からふた 40 を容易に移動することを可能にするように、任意の適切な形状、サイズ、および / または、方向に指用凹部 24 を並べ、位置付けることができることが理解される。

50

【 0 0 1 5 】

[0039] 図 1 ~ 3 および 9 ~ 1 0 は、カバー 2 0 の表面の上にわずかに高めるまたは高くしてもよいカバーバンプまたは突起 2 6 をさらに有していてもよいカバー 2 0 を示している。カバー突起 2 6 は、指用凹部 2 4 と類似した機能を提供する。言い換えると、カバー突起 2 6 は、フラップをカバー 2 0 の上にわずかに上げることにより、カバー 2 0 からフラップ 4 0 を移動する際にユーザを支援する。カバー突起 2 6 は、指用凹部 2 4 内に配置して示されているが、ユーザが容易にフラップ 4 0 をつかみ、カバー 2 0 からフラップ 4 0 を移動することを可能にするように、カバー 2 0 の任意の適切な面に配置されてもよいことが理解される。同様に、突起 2 6 は、ユーザが容易にカバー 2 0 からフラップ 4 0 を移動することを可能にする任意の適切な形状、サイズ、および / または、方向のものであってもよい。

10

【 0 0 1 6 】

[0040] 図 2 ~ 3 および 9 ~ 1 0 は、その中に排泄物を収容に適合されている開口 2 8 を有する半剛性カバー 2 0 を示している。開口 2 8 は、開口 2 8 を通して移動する排泄物または他の素材が可撓性ペール 1 0 の外側から可撓性ペール 1 0 の内側の内部保管区画 1 2 に移動するように、カバー 2 0 の中央に位置付けられてもよい。より具体的には、開口 2 8 を通して移動する素材は、チャンバー 1 2 中に置かれてもよい。

【 0 0 1 7 】

[0041] 図 2 ~ 3 および 9 ~ 1 0 は、臭気を区画 1 2 内に保つことを手助けするための防壁 3 0 を含むように、および、臭気が可撓性ペール 1 0 の外側に達することを回避するように開口 2 8 が構成されてもよいことを証明している。防壁は、カバー 2 0 と類似した素材、または、異なる可撓性のレベルの異なる素材でできてよい。

20

【 0 0 1 8 】

[0042] 防壁 3 0 は、第 1 のポジションにおいて、より小さな開口 2 8 a を形成するように開口 2 8 の総開エリアを制限するフィンガまたは複数のフィンガ 3 4 を有していてもよく、フィンガ 3 4 を通して、素材または悪臭が通過してもよい。複数のフィンガ 3 4 は、開口 2 8 の縁 2 9 から開口 2 8 のほぼ中心におけるより小さな開口 2 8 a へと径方向に内側に伸長する。

【 0 0 1 9 】

[0043] 図 1 0 は、防壁 3 0 の防壁凹部 3 2 の付加を示している。この防壁凹部 3 2 は、防壁 3 0 のさらなる可撓性を可能にし、ユーザは、より容易に防壁 3 0 を通して押し、排泄物を区画 1 2 に置くことができる。防壁凹部 3 2 は、防壁 3 0 の複数のフィンガ 3 4 上に配置されてもよい。防壁凹部 3 2 は、防壁 3 0 のフィンガ 3 4 に強度と可撓性を付加する。防壁凹部 3 2 または湾曲部は、防壁 3 0 にわたってフィンガ 3 4 が弾力的な反復使用に耐えることを可能にする。防壁凹部 3 2 はまた、ばねとしても機能してもよく、各使用の後に、その最初の閉ポジションで直立するように防壁フィンガ 3 4 を付勢する。

30

【 0 0 2 0 】

[0044] 図 1 ~ 3 および 6 ~ 7 は、カバーフラップ 4 0 が取り付けられているカバー 2 0 を企図している。フラップ 4 0 は、カバー 2 0 中の開口 2 8 にわたって枢動可能に取り付けられてもよい。より具体的には、フラップ 4 0 は、カバー 2 0 に取り付けられているベース 4 2 を有していてもよい。

40

【 0 0 2 1 】

[0045] 半剛性カバー 2 0 上の可撓性カバーフラップ 4 0 は、使用しないとき、開口にわたって閉じるように適合されてもよい。可撓性フラップ 4 0 は、さらに、閉じた、密封したポジションの開口 2 8 から漏れる排泄物からの臭気を密封するように適合されている、再密封可能な接着剤を有していてもよい。再密封可能な接着剤は、フラップ 4 0 が、閉ポジションと開ポジションとの間で枢動することを可能にする。再密封可能な接着剤を用いて説明したが、この開示にしたがって、カバー 2 0、フラップ 4 0、開口 2 8 とフラップ 4 0 とを通して漏れる悪臭を密封するためにさまざまな他の適切な方法が提供されてもよいことを理解すべきである。

50

【 0 0 2 2 】

【0046】 カバーフラップ 4 0 の動作は、片手動作によって行われてもよい。使用する際、カバーフラップ 4 0 は、開口 2 8 から引き離され、廃棄アイテムが開口 2 8 を通して置かれる。カバーフラップ 4 0 は、開口 2 8 を通して廃棄アイテムを挿入することを柔軟に可能にしてもよい。ユーザは、開口 2 8 にわたって配置されているカバーフラップ 4 0 を手で動かしてもよい。その後、カバーフラップ 4 0 が閉じられ、カバーフラップ 4 0 とカバー 2 0 との間に位置付けられている接着剤は、カバーフラップ 4 0 とカバー 2 0 を互いに密封し、可撓性ペール 1 0 の区画内から漏れる不快な臭気を回避するための空気の通らない密封を形成する。

【 0 0 2 3 】

【0047】 フラップ 4 0 の開閉を促進するために、フラップ 4 0 は、フラップ 4 0 による遮断なく、ユーザによってアイテムを開口 2 8 に挿入できるように、開ポジションでそれ自体を保持することが可能であるヒンジ 4 4 も有していてもよい。可撓性カバーフラップ 4 0 は、開口 2 8 の片側を枢動する。しかしながら、互いをカバーし、各フラップが開口 2 8 の異なる側を枢動する複数のフラップ 4 0 のような、さまざまな異なる方法でフラップ 4 0 を構築できることを理解すべきである。

【 0 0 2 4 】

【0048】 図 2 ~ 3 に戻って参照すると、ヒンジ 4 4 は、フラップが枢動する軸を提供する。軸に沿って、フラップ 4 0 はさらに、ヒンジアパーチャ 4 8 を有していてもよく、これは、フラップ 4 0 のより広い可撓性を可能にする。さらに、アパーチャ 4 8 は、フラップベース 4 2 に対するより広い表面エリアをカバー 2 0 に取り付けること可能にする。アパーチャ 4 8 中の素材の欠如により、フラップ 4 0 は、その後、開ポジションと閉ポジションとの間でより容易に枢動してもよい。示していないが、より薄い部分が枢動運動のための類似した容易さを達成できることがさらに企図されている。

【 0 0 2 5 】

【0049】 図 2 および 1 0 は、可撓性カバーフラップ 4 0 のヒンジ 4 4 が、幾何学的突起または脚 4 6 を形成するように切断されてもよいことを示しており、幾何学的突起または脚 4 6 は、開ポジションのままであるように可撓性カバーフラップ 4 0 に対する支持を提供する。可撓性カバーフラップ 4 0 が開かれるとき、幾何学的突起 4 6 は、前方に動き、カバー 2 0 の最上面に付勢し、可撓性カバーフラップ 4 0 を空いたままにすることを可能にする。開ポジションは、その後、カバーフラップ 4 0 による遮断なく、ユーザがアイテムを開口 2 8 に挿入することを可能にする。

【 0 0 2 6 】

【0050】 ユーザが、可撓性カバーフラップ 4 0 を閉じることを所望するとき、幾何学的突起 4 6 がカバー 2 0 に対してスライドするように十分な閉力がカバーフラップ 4 0 に適用されるまで、幾何学的突起 4 6 は、カバー 2 0 の最上面に対して加圧される脚として機能して前方に動き、脚 4 6 を解放するように後方に動き、カバーフラップ 4 0 が図 1 と 9 の閉ポジションに枢動することを可能にする。

【 0 0 2 7 】

【0051】 フラップ 4 0 の開閉をさらに支援するために、可撓性フラップ 4 0 は、ユーザが可撓性カバーフラップ 4 0 を容易に開閉することを可能にするプルタブ 5 0 を有していてもよい。より具体的には、タブ 5 0 は、カバーフラップ 4 0 中に構築され、カバー 2 0 から離れてカバーフラップを引っ張る際に支援し、開口 2 8 へのアクセスを可能にする。タブ 5 0 は、図 9 ~ 1 0 中に示すように、そこへの容易なアクセスのために、上方に曲げられてもよい。

【 0 0 2 8 】

【0052】 図 1 ~ 3 と 6 は、コンテナ本体 6 0 の上端 6 2 に取り付けられているカバー 2 0 を示している。コンテナ本体 6 0 は、一般的に円柱形状を有する可撓性シートでできている。コンテナの可撓性シートは、直立ポジションに伸張し（図 1 ~ 3）、および / または、保管のために平らに圧縮される（図 6）ことができる半剛性素材からなってもよい。

10

20

30

40

50

例えば、可撓性ペール 10 は、おおよそ 3 . 1 7 5 mm (1 / 8 インチ) 未満の高さに圧縮、または、4 5 7 . 2 mm (1 8 インチ) 以上の高さに完全に伸張できる。可撓性ペール 10 の最大高は、区画 1 2 中にどのくらいの排泄物を置くことを望むかによって選ぶことができる。例えば、おおよそ 4 5 7 . 2 mm (1 8 インチ) の高さは、おおよそ 3 0 個の使用済の新生児のおむつを収容できる。高さ範囲は、短くて 1 日または長くて 1 週間の間、可撓性ペール 10 を使用する柔軟性をユーザに提供する。言い換えると、可撓性ペール 10 の高さの範囲は、適合可能な区画 1 2 を提供し、その容積は、高さ範囲で異なる。容積または適合可能な区画 1 2 の変化は、区画が満杯になるまでユーザが望むのと同じくらい多いまたは少ない排泄物を収容することが可能である。

【 0 0 2 9 】

10

[0053] コンテナ本体 60 を生産するために、さまざまな素材を、本主題開示にしたがって選択してもよい。半剛性素材は、使用および保管の間、可撓性ペール 10 を直立の向きで保持するために、十分な剛性を提供するように使用されてもよい。選択される素材はまた、臭気耐性であってもよい。脱臭剤は、悪臭が可撓性ペール 10 内から発せられることを回避するために、本主題の開示に組み込まれてもよい。

【 0 0 3 0 】

[0054] 図 3 ~ 4 は、コンテナ本体 60 の長さの一部分または全体に沿った、コンテナ本体 60 中の透明線 66 を図示している。透明線 66 は、すでに使用した空間の量および中に残っている容量をユーザが見る、および / または、計画することを可能にする。

【 0 0 3 1 】

20

[0055] コンテナ本体 60 は、さまざまな異なる形状をとってもよい。ここでの実施形態は、円柱形であるが、コンテナ本体は、直角プリズムまたは任意の鈍角形状のような、任意の適切な形状をとることができる。したがって、半剛性カバー 20 とベース 80 は、相補的な形状を有していてもよい。

【 0 0 3 2 】

[0056] 図 3 と 8 は、ベース 80 がコンテナ本体 60 の下端 64 に取り付けられていることを示している。カバー 20 の、コンテナ本体 60 の上端 62 への取り付けのように、取り付けの同じ方法が、コンテナ本体 60 の半剛性ベース 80 と下端 64 に対して可能である。すなわち、ベース 80 は、類似したベースリップ 82 を有していてもよい。上記で議論した類似した加熱密封プロセスは、ベースリップ 82 と第 2 の下端 64 との間で適用されてもよい。しかしながら、ベース 80 は、接着剤、結合剤、素材溶剤、および / または、カバー 20 を可撓性シートの上端に取り付けるための他の何らかの適切な方法に限定されないが、これらのようなさまざまな方法でコンテナ本体 60 の下端 64 に締結されてもよいことを理解すべきである。

30

【 0 0 3 3 】

[0057] カバー 20 同様、ベース 80 は、第 2 の下端 64 に結合されるベースリップ 82 を有する必要はない。コンテナ本体 60 の第 2 の下端 64 が、ベース 80 に直接結合されてもよいことが企図される。コンテナ本体 60 の第 2 の下端 64 は、複数の内側に面するタブに形成されてもよく、これらは、重複することなく内側に折り畳まれてもよく、ベース 80 に直接結合されてもよい。ベースリップ 82 の除去は、可撓性ペール 10 をより小さなユニットに圧縮することを可能にする。

40

【 0 0 3 4 】

[0058] 可撓性ペール 10 へのさらなる付加もここで開示する。例えば、可撓性ペール 10 は、つるすためにそこに配置されているループまたはタブ 14 も有していてもよい。図 6 ~ 12 中で示すように、ループまたはタブ 14 は、カバー 20 に沿って成形されてもよい。しかしながら、ループ 14 は、可撓性ペール 10 をつるすためのロケーションを提供するように、可撓性ペール 10 のどこにでも取り付けられてもよいことを理解すべきである。例えば、ループ 14 は、コンテナ本体 60 中に構築されてもよい。最終的に、ループ 14 は、便利なロケーションで可撓性ペール 10 をつるす能力をユーザに提供する。同様に、可撓性ペールを 1 つのロケーションから別のロケーションに運ぶとき、ループまた

50

はタブ 1 4 は、取っ手として使用されてもよい。複数のループまたはタブ 1 4 は、取っ手および/またはつるしポイントとして提供されることも企図される。示していないが、フックは、ループまたはタブ 1 4 に対する類似の機能を満たしてもよい。

【 0 0 3 5 】

[0059] 可撓性ペール 1 0 がタブ 1 4 を有するとき、タブ 1 4 は、より良いグリップのために、付加的な接触面を提供するための凹部または溝 1 5 を有していてもよい。凹部 1 5 の使用はまた、その中に適合してもよい広いフックに対する保持ポイントを兼ねてもよい。

【 0 0 3 6 】

[0060] 図 1 1 ~ 1 2 は、防壁 3 0 が開始する開口 2 8 の縁 2 9 に配置されている防壁肩 1 3 2 を企図している。防壁肩 1 3 2 は、同様に防壁 3 0 の付加的な可撓性を提供し、ユーザは、防壁 3 0 を通してより容易に押し、排泄物を区画 1 2 に置くことができる。防壁肩 1 3 2 におけるステップは、防壁 3 0 の強度を増大させ、防壁フィンガ 3 4 の反復運動による防壁 3 0 の劣化を回避する。

【 0 0 3 7 】

[0061] 図 1 3 ~ 1 4 は、可撓性ペール 1 0 が防壁 3 0 を有する必要がないことを証明している。要素を除去することにより、可撓性ペール 1 0 は、より大きな開口 2 8 を有し、これは、そこに排泄物を置くためのより容易なアクセスを提供する。

【 0 0 3 8 】

[0062] 図 1 3 ~ 1 4 は、ベース拡張 4 2 a を有する開口 2 8 をカバーするフラップ 4 0 をさらに企図している。ベース拡張 4 2 a は、カバー 2 0 を結合するためのフラップベース 4 0 に対して付加的な表面エリアを提供することにより、カバーフラップ 4 0 が剥離することの回避を手助けする。

【 0 0 3 9 】

[0063] 図 1 5 ~ 1 6 は、凹部 3 2 または肩 1 3 2 がない防壁 3 0 を有する可撓性ペール 1 0 を示している。その欠如は、より高い剛性を可撓性ペール 1 0 の防壁 3 0 に提供し、これはまた、フィンガ 3 4 がたるむまたは垂れ下がる可能性を下げることににより、可撓性ペール 1 0 を向上させる。さらに、増加した剛性は、防壁 3 0 への不要なまたは偶発アクセスが、フィンガ 3 4 を押圧し、それを通して臭気を解放することを回避するだろう。

【 0 0 4 0 】

[0064] 図 1 7 は、本主題の開示にしたがう矩形可撓性ペール 1 1 0 を示している。矩形形状は、より広い容積と可撓性ペール 1 0 の直立を保持するための広いベースとを促進する。さらに、この形状は、縁 1 1 3 を生成するために異なるパネル 1 1 2、1 1 4 をとともに融合させることにより、矩形可撓性ペール 1 1 0 が直立することを可能にするさらなる支持を提供してもよく、これは、矩形可撓性ペール 1 1 0 の全体の形状に耐え、支持できる。しかしながら、可撓性ペール 1 0、1 1 0 は、素材を内部に保持する課題を達成する任意の形状またはサイズをとってもよいことが理解されるだろう。例えば、上記で開示したような一般的な円柱形状も、素材を内部に保持できる。同様に、一般的な円柱形状は、素材を内部に保持することに加えて、直立することができる。なぜなら、可撓性ペールの下方重量は、円柱形上の側面にわたって均一に分散されるからである。

【 0 0 4 1 】

[0065] 図 1 8 は、カバー 2 0 に取り付けられている、拡張ベース 1 4 2 においてヒンジ連結された可撓性カバーフラップ 4 0 の別の実施形態を有する矩形可撓性ペール 1 1 0 を示している。可撓性カバーフラップ 4 0 は、そこに結合させるために結合剤に対する付加的な表面エリアを提供することによって、カバーフラップが剥離することを回避する拡張ベース 1 4 2 を有していてもよい。また、カバーフラップを固定する方法を提供することを手助けする透明の再密封可能な接着シート 1 4 1 があってもよい。ヒンジは、カバーフラップが開いたままにできるように、幾何学的ダイカット 1 4 4 も有していてもよい。透明接着シート 1 4 1 がヒンジ 4 4 をブロックすること、または、その逆をすることを回避するために、幾何学的ダイカット 1 4 4 に透明接着剤 1 4 1 も添加してもよい。可撓性

10

20

30

40

50

カバーフラップ４０はまた、ユーザがカバーフラップを容易に開閉するためのタブ１５０も有していてもよい。

【００４２】

[0066] 図１９～２０は、カバー２０とコンテナ本体６０とを有する可撓性ペール２１０を証明している。カバー２０は、そこに取り付けられているフラップ４０を有する。可撓性ペール２１０は、可撓性ペール２１０をより軽くすることを可能にする、図３中に構築されている可撓性ペール１０のような別々のベースを有さない。別々に構築されたベースはないが、可撓性ペール２１０は、コンテナ本体６０に対して使用される素材の剛性特性により立つことができてもよい。上記で開示した可撓性ペール１０と類似して、可撓性ペール２１０は、可撓性ペール１０がフックまたは他の類似した構造を捕える能力を提供する、ループ１４を有していてもよい。ベースは、コンテナ本体６０と一体化されていることから、可撓性ペール２１０は、立つ代わりにつるすために、ループ１４に依存することがより多いかもしれない。可撓性ペール２１０は、つるすことと立つことの両方が可能であってもよい。

10

【００４３】

[0067] 図２１～２２は、上部開口３６２と閉じた下部端３６４とによる、単一の統合形状を有する可撓性ペール３１０を図示している。上部開口３６２は、封３４０のようなさまざまな異なる方法で密封可能であってもよい。封３４０は、閉じた開口をロックし、密封するために、ともに加圧されることができ開口３２８に沿って、２部ストライプ３４４として組み込まれてもよい。２部ストライプは、２本のストライプ３４４ａ、３４４ｂ２、および、ともに加圧されるとき、空気を通さない密封を形成する密封デバイダ３４２を含んでいる。同様に、密封デバイダ３４２は、２本のストライプ３４４ａ、３４４ｂの最上部に沿って配置されている溝と隆起をかみ合わせ、互いから２つの部分を引き離すための十分な力により、２本のストライプ３４４ａ、３４４ｂを分離することもできる。

20

【００４４】

[0068] 使用する際、可撓性ペール３１０が開かれ、開口３２８を通して区画１２内に配置される排泄物が置かれる。その後、かみ合わせた溝と隆起を相互接続させ、空気を通さない密封を形成させるように、２部ストリップ３４４はともに加圧される。本開示にしたがって、可撓性ペールの上端を密閉するために、さまざまな他の適切な方が提供されてもよいことを理解すべきである。

30

【００４５】

[0069] ここで提供した図および例は、説明目的のためであり、添付の特許請求の範囲を限定することを意図してはいない。本発明の広い発明の概念から逸脱することなく、上記で説明した実施形態に変更または修正をすることができることが、当業者によって認識されるだろう。したがって、本発明は、説明した特定の実施形態に限定されないが、本発明の範囲および精神内のすべての修正および変更をカバーするように意図されていることが理解される。

ここに、出願当初の特許請求の範囲の記載事項を付記する。

[１] 可撓性おむつペールであって、

コンテナを備え、

40

前記コンテナは、

第１の上端と第２の下端とを有する可撓性シートと、

前記可撓性シートの前記第１の上端に取り付けられているカバーと、前記カバーは開口を有し、

前記可撓性シートの前記第２の下端に取り付けられているベースと、

前記カバーに枢動可能に取り付けられ、開ポジションに、および、閉ポジションに枢動するように適合されているフラップと、

前記開口に配置されている臭気防壁とを備え、

前記コンテナは、直立するように適合されている、可撓性おむつペール。

[２] 前記開ポジションは、排泄物を収容するように適合され、前記閉ポジションは、

50

臭気を密封するように適合されている、[1]に記載の可撓性おむつペール。

[3] 前記フラップは、少なくとも1つの突起をさらに有する、[1]に記載の可撓性おむつペール。

[4] 前記少なくとも1つの突起は、可撓性フラップが開いたままになるように、前記開ポジションで前記フラップを固定する、[3]に記載の可撓性おむつペール。

[5] 前記コンテナは、6 . 3 5 mm (1 / 4 インチ) の高さに圧縮するように適合されている、[1]に記載の可撓性おむつペール。

[6] 前記コンテナは、4 5 7 . 2 mm (1 8 インチ) の高さに伸張するように適合されている、[1]に記載の可撓性おむつペール。

[7] 前記コンテナは、圧縮および伸張するように適合されている、[1]に記載の可撓性おむつペール。

10

[8] 前記コンテナは、6 . 3 5 mm (1 / 4 インチ) の高さで4 5 7 . 2 mm (1 8 インチ) の高さとの間で圧縮および伸張するように適合されている、[1]に記載の可撓性おむつペール。

[9] 前記カバーは、リップを有し、前記リップは、前記可撓性シートの前記第1の上端に結合される、[1]に記載の可撓性おむつペール。

[1 0] 可撓性おむつペールであって、

コンテナを備え、

前記コンテナは、

第1の上端と第2の下端とを有する可撓性シートと、

20

前記可撓性シートの前記第1の上端に取り付けられているカバーと、前記カバーは開口を有し、

前記可撓性シートの前記第2の下端に取り付けられているベースと、

前記カバーに枢動可能に取り付けられ、排泄物を収容するための開ポジション、および、臭気を密封するための閉ポジションの間で枢動するように適合されている可撓性フラップと、

前記開口に配置されている臭気防壁とを備え、

前記コンテナは、直立するように適合されている、可撓性おむつペール。

[1 1] 前記可撓性フラップは、少なくとも1つの突起を有する、[1 0]に記載の可撓性おむつペール。

30

[1 2] 前記少なくとも1つの突起は、前記可撓性フラップを前記開ポジションに固定するように、安定性を前記可撓性フラップに提供する、[1 1]に記載の可撓性おむつペール。

[1 3] 前記コンテナは、6 . 3 5 mm (1 / 4 インチ) の高さに圧縮するように適合されている、[1 0]に記載の可撓性おむつペール。

[1 4] 前記コンテナは、4 5 7 . 2 mm (1 8 インチ) の高さに伸張するように適合されている、[1 0]に記載の可撓性おむつペール。

[1 5] 前記コンテナは、圧縮および伸張するように適合されている、[1 0]に記載の可撓性おむつペール。

[1 6] 前記コンテナは、6 . 3 5 mm (1 / 4 インチ) の高さで4 5 7 . 2 mm (1 8 インチ) の高さとの間で圧縮および伸張するように適合されている、[1 0]に記載の可撓性おむつペール。

40

[1 7] 前記カバーは、リップを有し、前記リップは、前記可撓性シートの前記第1の上端に結合される、[1 0]に記載の可撓性おむつペール。

[1 8] 可撓性おむつペールであって、

コンテナを備え、

前記コンテナは、

第1の上端と第2の下端とを有する可撓性シートと、前記可撓性シートは、圧縮および伸張するように適合され、

開口とリップを有するカバーと、前記リップは、前記可撓性シートの前記第1の上端に結

50

合され、
前記可撓性シートの前記第 2 の下端に取り付けられているベースと、
前記カバーに枢動可能に取り付けられ、排泄物を収容するための開ポジション、および、
臭気を密閉するための閉ポジションの間で枢動するように適合されている可撓性フラップ
と、
前記開口に配置されている臭気防壁とを備え、
前記コンテナは、直立するように適合されている、可撓性おむつペール。
[1 9] 前記可撓性フラップは、前記可撓性フラップが開いたままになるように、前記
開ポジションで前記可撓性フラップに安定性を提供する少なくとも 1 つの突起を有する、
[1 7] に記載の可撓性おむつペール。
[2 0] 前記コンテナは、6 . 3 5 mm (1 / 4 インチ) の高さで 4 5 7 . 2 mm (1
8 インチ) の高さとの間で圧縮および伸張するように適合されている、[1 7] に記載の
可撓性おむつペール。

【 図 面 】

【 図 1 】

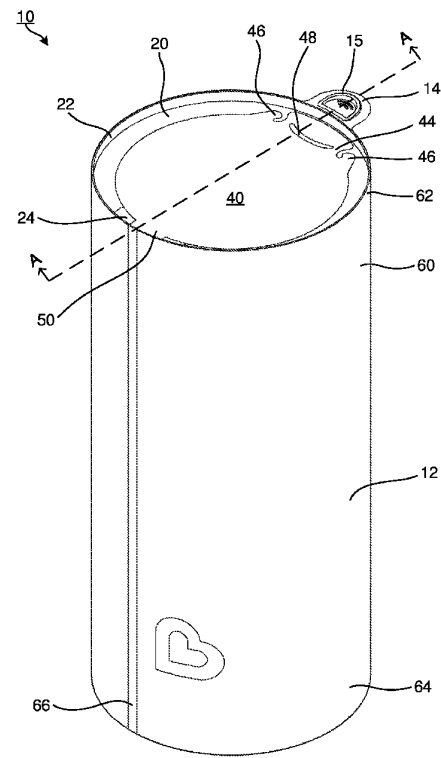


FIG. 1

【 図 2 】

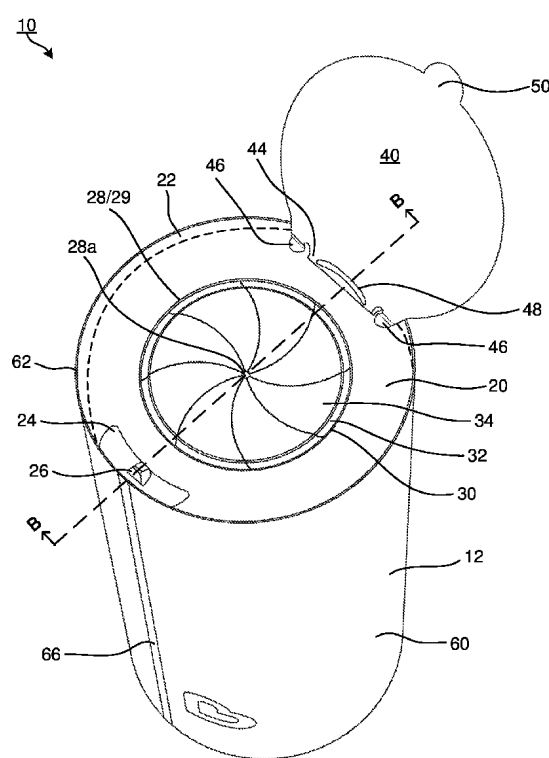


FIG. 2

10

20

30

40

50

【 図 3 】

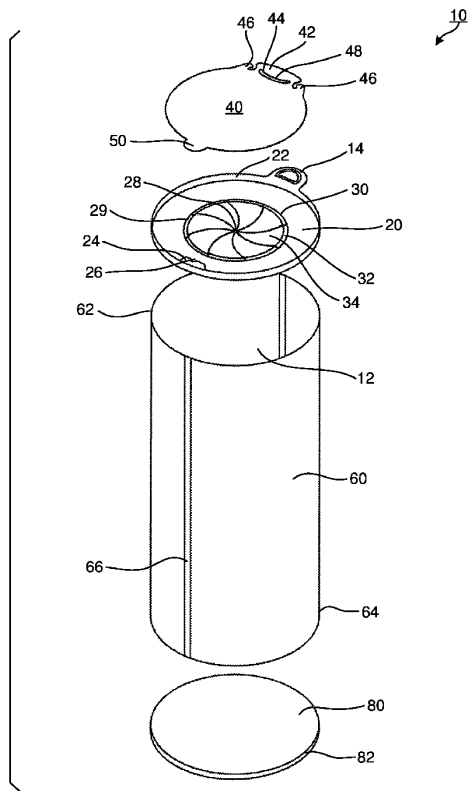


FIG. 3

【 図 4 】

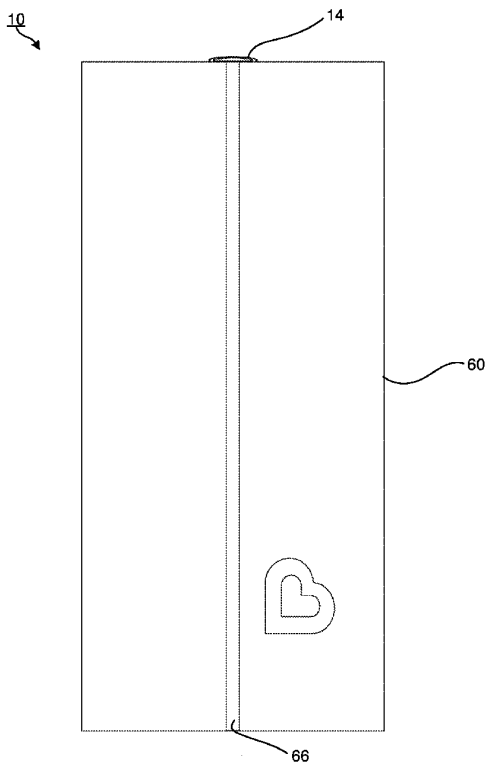


FIG. 4

【 図 5 】

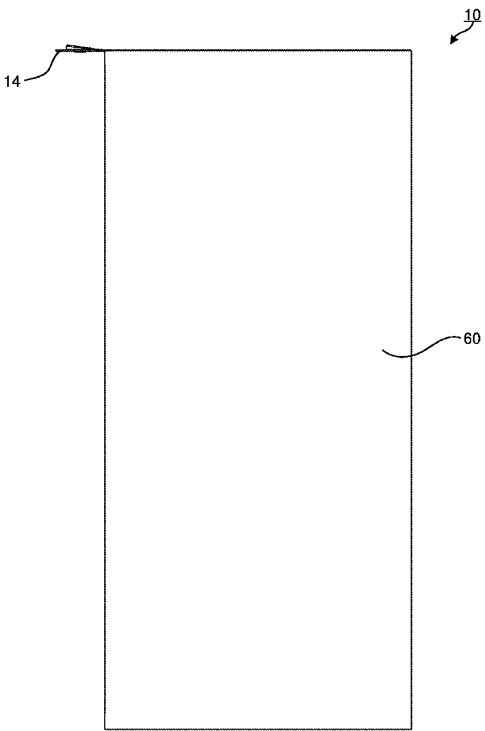


FIG. 5

【 図 6 】

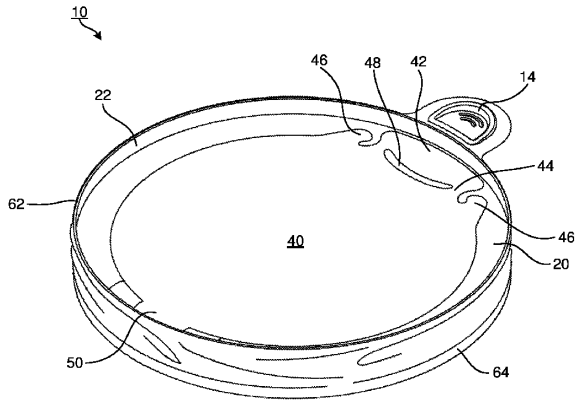


FIG. 6

10

20

30

40

50

【図 7】

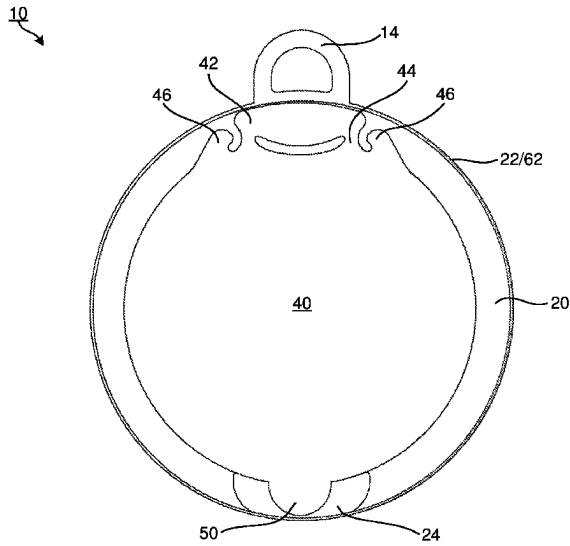


FIG. 7

【図 8】

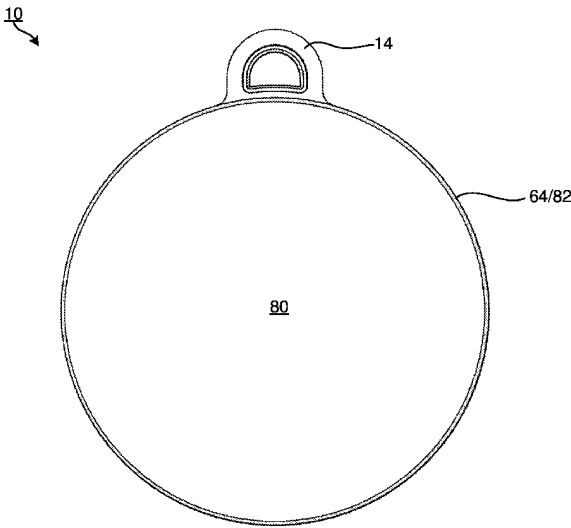


FIG. 8

【図 9】

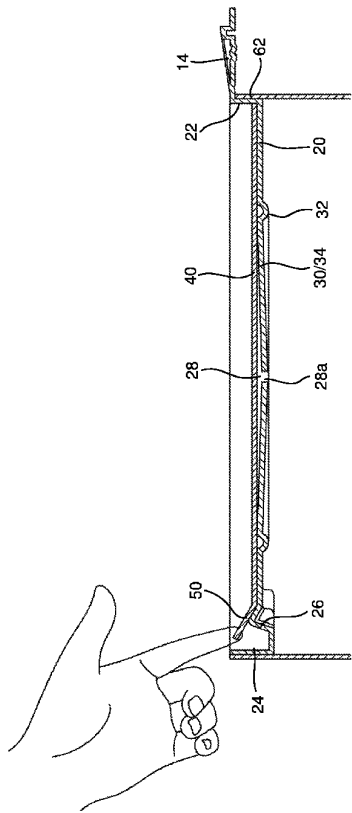


FIG. 9

【図 9 A】

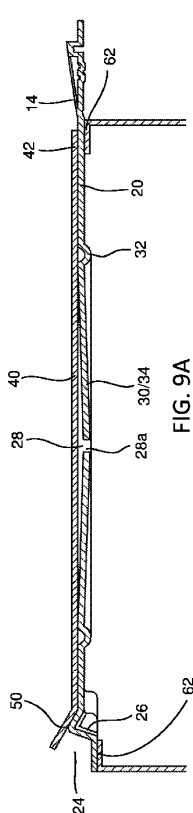


FIG. 9A

10

20

30

40

50

【図 9 B】

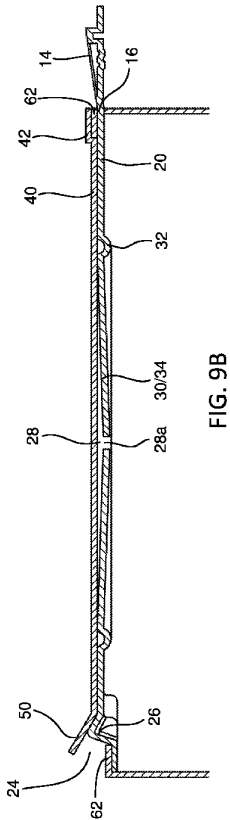


FIG. 9B

【図 1 0】

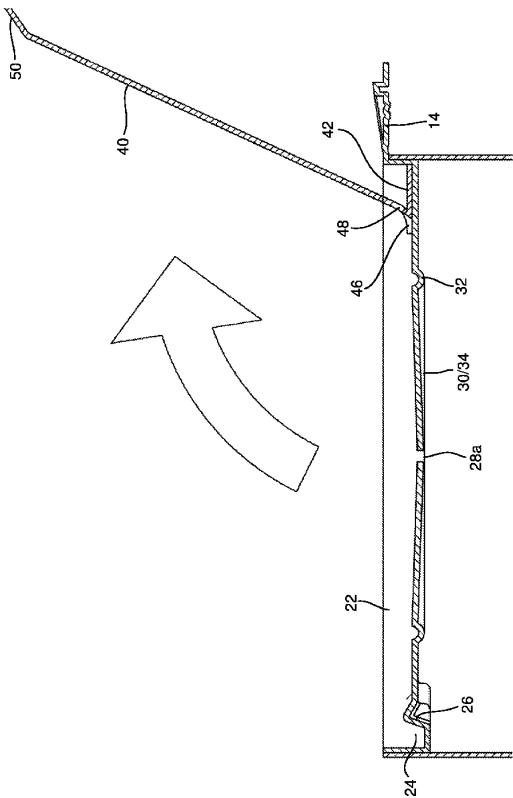


FIG. 10

【図 1 1】

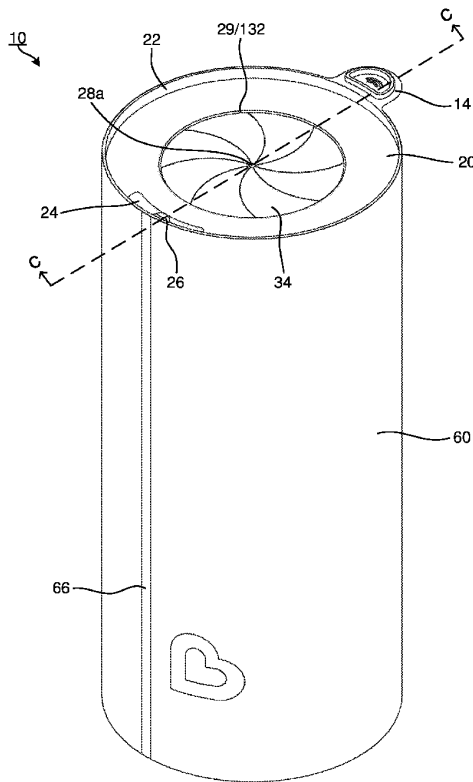


FIG. 11

【図 1 2】

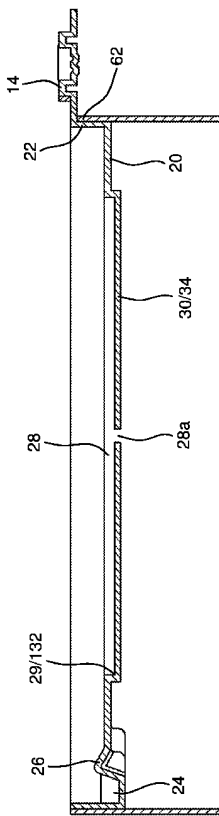


FIG. 12

10

20

30

40

50

【図 1 3】

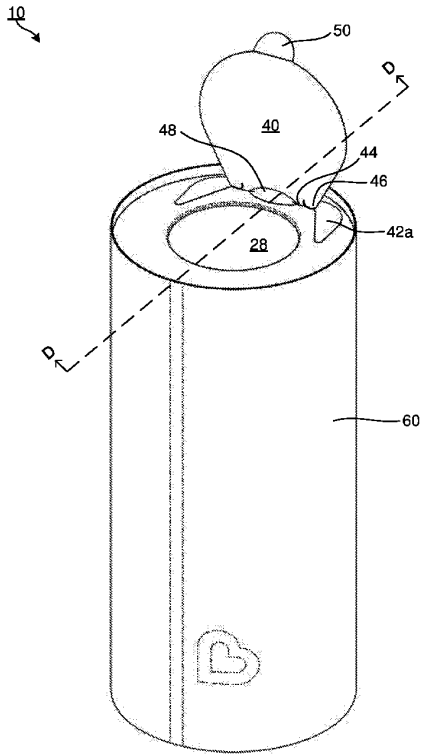


FIG. 13

【図 1 4】

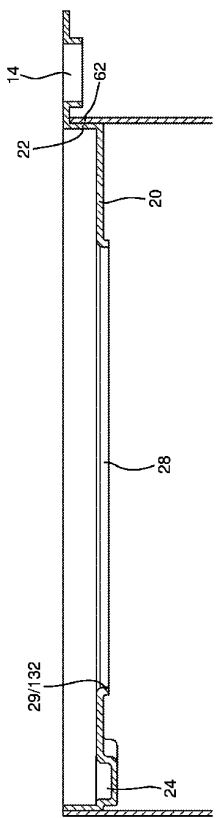


FIG. 14

【図 1 5】

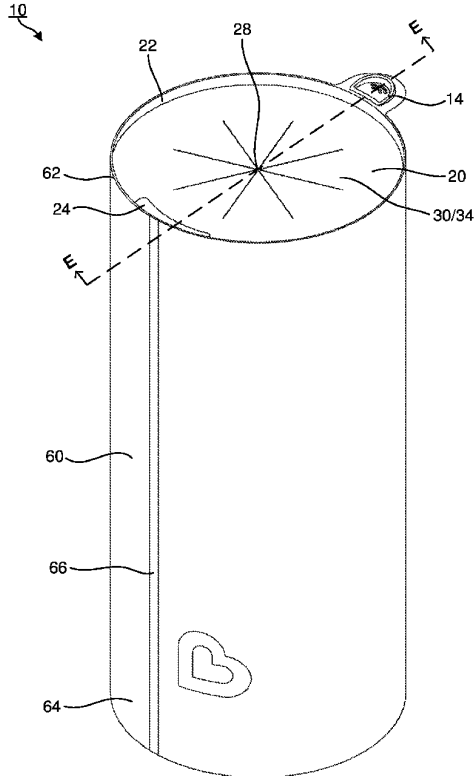


FIG. 15

【図 1 6】

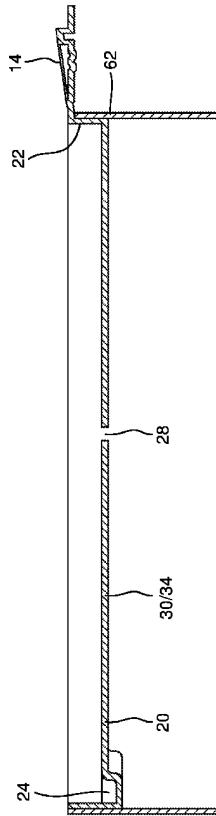


FIG. 16

10

20

30

40

50

【図 17】

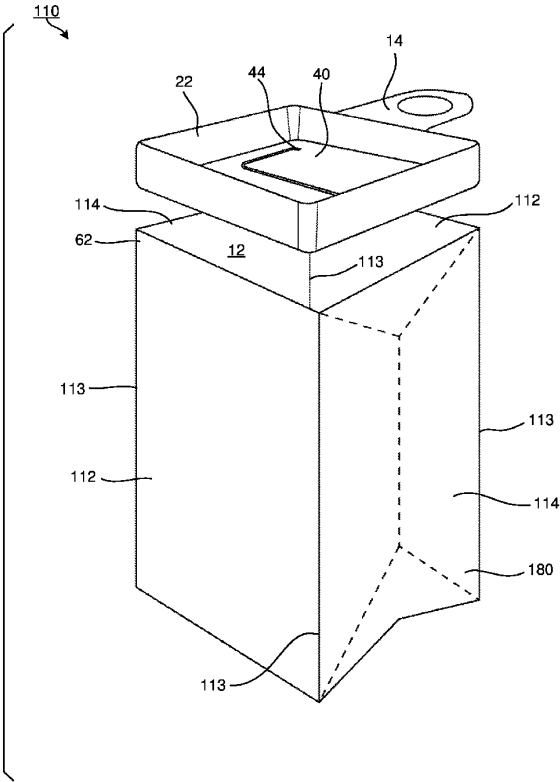


FIG. 17

【図 18】

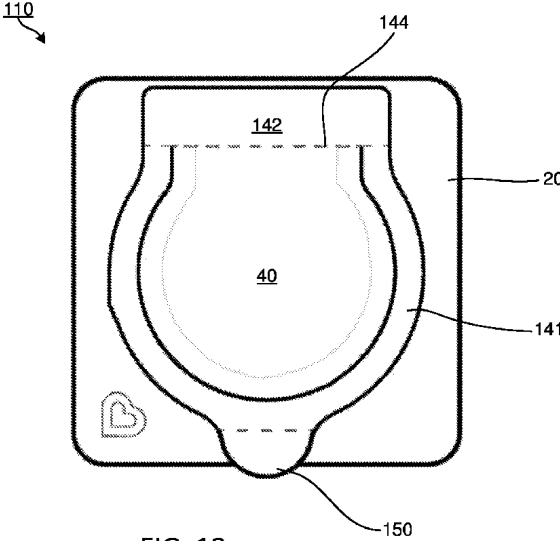


FIG. 18

【図 19】

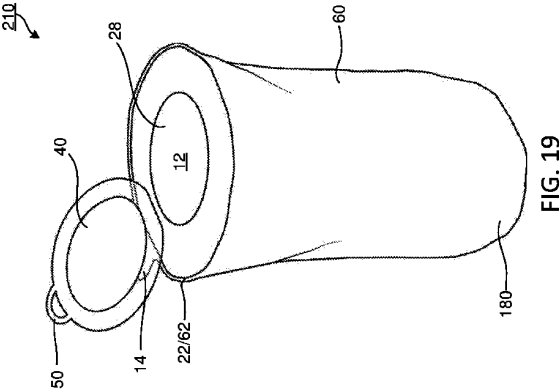


FIG. 19

【図 20】

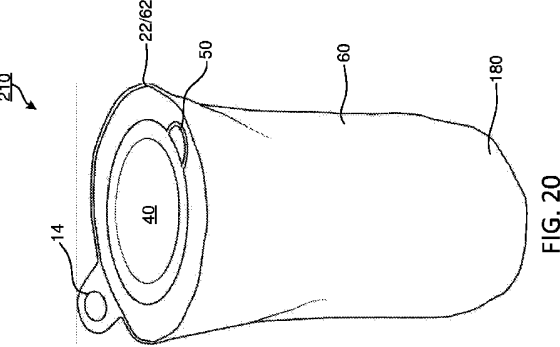


FIG. 20

10

20

30

40

50

【図 2 1】

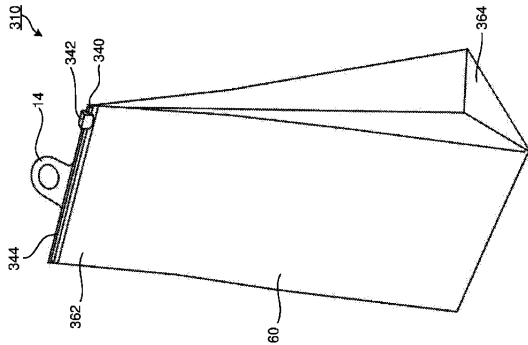


FIG. 21

【図 2 2】

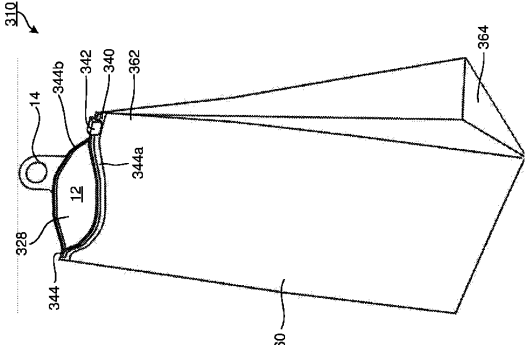


FIG. 22

10

20

30

40

50

フロントページの続き

(33)優先権主張国・地域又は機関

米国(US)

(31)優先権主張番号 62/688,795

(32)優先日 平成30年6月22日(2018.6.22)

(33)優先権主張国・地域又は機関

米国(US)

前置審査

(72)発明者 ジョンソン、ケビン・ダグラス

アメリカ合衆国、カリフォルニア州 9 1 3 5 6、ターザナ、ハッテラス・ストリート 1 8 3 3 3
、ナンバー 4 3

(72)発明者 サクストン、マシュー・ジョセフ

アメリカ合衆国、カリフォルニア州 9 1 3 0 1、アグーラ、マルホーランド・ハイウェイ 3 0 4
7 3、ナンバー 4

審査官 新井 浩士

(56)参考文献 特開 2 0 0 2 - 0 5 9 1 3 4 (J P , A)

韓国公開特許第 1 0 - 2 0 1 3 - 0 1 1 0 4 3 4 (K R , A)

米国特許第 0 5 9 6 0 9 8 3 (U S , A)

米国特許出願公開第 2 0 1 7 / 0 3 3 4 6 4 1 (U S , A 1)

米国特許出願公開第 2 0 1 3 / 0 3 4 1 3 2 8 (U S , A 1)

米国特許出願公開第 2 0 1 1 / 0 1 0 1 0 1 4 (U S , A 1)

特表 2 0 1 7 - 5 2 9 2 9 4 (J P , A)

(58)調査した分野 (Int.Cl. , D B 名)

B 6 5 F 1 / 0 0 - 1 / 1 6

B 6 5 D 3 3 / 0 0 - 5 1 / 0 4

A 6 1 G 1 2 / 0 0